

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	(株)マウントバード		
事業所名	グループホームわかばの家2F		
所在地	千葉県若葉区東寺山町399-1		
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和1年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して四季を感じられるよう利用者様と一緒にその時期の食べ物や装飾など作ったりしている。外食、買い物など外に出る機会を増やし楽しんでもらっている。入居者に応じた自立支援を行っている。またやりがいをもってもらえるようにしている。入退院でADLが下がってしまったとしてもホームでの生活が続けられるよう、また前のADLに近づくよう看護師、職員で話し合い、諦めず色々計画、実行できるよう努力している。トイレでの排泄を目指し入居者様の排泄リズムでトイレ誘導している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送りのあと復唱し、意識をもってケアに入っている。またホーム内で一年間の目標を全体会議で決め実行できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月27日神社清掃があるのでできる限り参加するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事に地域の方が参加してもらえよう民生委員を通して声掛けしてもらっている。また散歩などであった近隣の方にも積極的に声掛けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	安心ケアセンター職員、民生委員、ご家族などが参加し年4回開催している。ホームでの暮らしぶりや現状報告、取り組みなどを報告し意見を吸い上げ、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に安心ケアセンター職員が参加しているため情報交換している。必要に応じて障害支援課、社会援護に相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が描くフロアの様子をチェックし、会議などで改善事項など伝えている。社内研修のほか外部研修にも順番に参加しそのあとフロア会議で勉強会を実施している。家族の希望もあり玄関に施錠しているが希望者は職員と外出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われぬよう職員一人ひとりが意識してケアに入っている。フロア会議でも勉強会を開き再確認するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在生活保護の方で青年後見人がついて いる。各職員が対応することも理解して いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約に関しては必要事項を説明し質問疑問 があるときは一つ一つ丁寧に対応してい る。契約が終わったあとも声掛けをしてい る。解約に関しても本人や家族が納得がい くまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	年一回の家族会、運営推進会議などでも意 見を聞いている。来訪時にも積極的に声掛 けたり要望など聞ける雰囲気を作る努力を している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも意見を言いやすい雰囲気 を作り申し送りやフロア会議で意見を求め るようにしている。また改善提案書を作り誰 でも提案できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	定期的に職員面談を行い、各自の事情や 希望、今後へのキャリアアップなど話し合っ ている。また改善と工夫に力を入れ評価制 度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	職員一人一人の力量を把握し、外部内部 の研修への参加を促している。また日々の 業務への取り組みなども観察し必要に応じ て面談やアドバイスをしたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	会社が運営しているほか施設の職員と一 緒に勉強会や研修会、講習会に参加してい るまた外部の研修にも参加し他施設の職員 との交流を図っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接お会いし、希望や不安をよく聞き職員全員で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も見学に来てもらったり話し合ったりし安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを決める前に本人やご家族に必要な支援ができるほかのサービスも説明している。グループホームもなるべくたくさん見学されご本人にあったところを選ぶよう促している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶や食事をしながら昔の話を聞いたり料理や縫物などを教わりながらコミュニケーションを図りよい関係を築けるよう努力している。またできることは積極的にお願ひ、自分で考えて行動できるよう職員は見守りに徹している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、本人の買い物や用事、運営推進会議への参加、ホームへの参加(草刈り、夏祭り)など積極的に関わっていただけるように働きかけながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の方やサークルの仲間が来訪したりしている。またなじみの美容院や喫茶店など家族と出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格人間関係を考え赤外をしたり一緒に外出したりする。おてうダイヤゲームなど通じて入居者同士で話す機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても手紙を出したり状況を伝えあったり状態が安定しているか訪問したり電話相談など対応している。転居されても気軽に訪問できる雰囲気作りに努めている。10/11から職員として働く元利用者家族あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や以降は普段の会話の中から引き出している。一対一になれる入浴などでより会話し引き出せるよう努めている。またご家族に話を伺い参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活歴お聞きご本人からは生活の中で情報を得るようにしてる。できるだけ自宅にいた時のように過ごして頂けるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は必ず日報、申し送りノートなどに目を通し、一人ひとりの状況を把握してからケアに入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議にて「改革作成担当者を中心に職員全員で話し合ってプランの検討、作成し、家族に確認していただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報と介護経過記録を毎日、日勤者と夜勤者が記録して情報共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出などホームできる範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の警察、消防署と連携を取り離設時や火災などに備えている。また近隣のお店などにも挨拶や利用して緊急時の連絡や救助のお願いはしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関希望であればそのまま継続してもらっている。協力医療機関の診察は2週間に一回、訪問看護はほぼ毎日来て状況を把握している。職員の不安なども聞いてくれ安心して入居者様のケアが行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当社の看護師がほぼ毎日来てくれ健康管理また医療機関とのパイプ役を果たしている。24時間医療連携もとれていて夜間なども連絡が取れる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできる限り様子を見に行き早期に退院にむけ病院側と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に契約書にも入っている「重度化した場合における対応及び見取りに関する指針」を説明し希望を聞いている。状態が悪化しホームでの見取りを希望されたときは見取りケアに入る前に看護師による勉強会を開き職員が不安なくケアできるようにしている。この一年看取り2件あり		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当社看護師に急変時や事故などの対応方法について研修会をしてもらっている。目で見てわかるマニュアルも緊急連絡簿に閉じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は必ず行っている。消防署立ち合いでやる場合は助言をもらっている。非常時に備え近隣事業所に挨拶や利用を欠かさないようにしている。今回の台風15号の災害で停電3日間。家族に協力してもらい自宅に帰られた方5名。急変者なく無事に乗り切れた。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても尊厳のある暮らしを実現させるため、入居者それぞれに常に目を配りよう心掛けている。必ず〇〇さんと呼ぶように徹底している。穏やかな声掛けを心掛け相手を一人の人間として尊重して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特別食のメニューを一緒に考えたり、外食、おやつを選ぶときに好みを聞いたりやりたい事やそうでないことなど本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、おやつなどは決まった時間が多い中で本人の体調や気分に合わせて職員の都合で押し付ける事はやらないよう徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や化粧の好みを聞いたり本人に選んでもらっている。外出するときは普段よりもおしゃれに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルに応じて野菜の皮むきや刻み、盛り付け、配膳、片付けなどお手伝いしていただいている。洗濯物干しやたみなども積極的にやってくれる入居者もいるため周りを巻き込みながら、みんなのできる時間も作るように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良いメニューを作っておりその指示通りに作っている。食事量、水分量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各自歯ブラシを持ち自分で磨けるよう支援している。仕上げが必要な方はその都度対応している。抵抗がある方にはうがいだけでもできるようにしている。必要に応じて訪問歯科を受信している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排尿、排便間隔を把握しトイレ誘導している。便秘傾向の入居者には看護師が根気よく下剤の調整をしている。失禁がないように早めにトイレ誘導するよう職員間で声掛けしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩など体を動かすようにしている。また水分摂取量の把握やサンファイバーの導入。乳製品の提供など提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴としているが希望に応じて回数を増やしたりしている。入浴剤なども使い温泉気分を味わってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気の強いときは無理して起こしておかず居室で休んでもらったりと個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や落薬が内容に注意している。服薬後の症状の変化については職員間で引き継ぎしている。提携している薬局の薬剤師とも情報共有している。変更があった場合は注意点などよく聞き症状や様子を申し送りできるよう日報に記入することが徹底されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から入居前に情報収集し趣味嗜好品の把握に努めている。また日常生活に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて対応している。みんなで外出計画する場合も入居者みんなに聞ききたいところに出かけるようにしている。 9/24 くら寿司外出		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る入居者様にはご自分で管理してもらっている。(お財布中身3000円上限) 買い物の際や自販機でもご自身で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談の上入居者様から要望があれば自由に電話や手紙のやり取りをいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気や正目はLEDを使用している。室温も季節を感じられるよう調整している。 居室入り口には表札を飾り自分の部屋がわかるようにしている。 廊下には外出やイベントの写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすを所どころに配置し思い思いに過ごしたり入居者同士でコミュニケーションを図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や大切にしていた物を自由に持ちこんでいただき、自分の部屋だと思い安心して生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は段差がなくバリアフリーになっている。リビングやテラスは自由に出られるようになっている。包丁や針は職員見守りの元、使用している。		